

顧客ニーズから見た フィルム・シート加工技術の動向 —「革新的なものづくりサービス」への挑戦—

JOHNNAN(株) 遠藤 賢哉*

1962年の創業以来、当社はメーカー各社の受託製造サービスを通じて、電子部品や機器の加工・組立てをはじめ、フィルム・シート加工、自動化・省力化機器、FA ロボット、医療機器、ヘルスケア関連機器の設計・製作に関する技術やノウハウを蓄積してきた。近年は、3次元成形回路の設計、3次元実装に関する新規事業にも取り組んでいる。

当社は、顧客の開発支援・試作から量産試作・量産までワンストップで対応して最終製品を届けるなど、「モノづくり」の川上から川下までサービスを提供している。用途先の分野は、半導体、通信機器、自動車、産業機器、船舶、医療機器、航空・宇宙分野など多岐にわたる。モノづくりにおける職人の技を守り育みながら、世界から最新のモノづくり技術も積極的に取り入れ、当社のビジョンである「革新的なものづくりサービスを提供し、あなたの想いを製品にして、社会に実装する」を目指して事業活動に邁進している。

フィルム・シート加工技術を取り巻く 業界動向

フィルム・シート加工に関する最近の業界動向を、当社の営業活動から得た情報や知見をもとに記す。当社の取組み内容を表に示す。最近、有機EL関連の案件が増加している。反面、有機ELの輝度に対抗した液晶関連のフィルム案件も同様に増えている。有機

ELは、今まで世の中になかったフィルム・シート開発製品が多く、液晶は既存製品の輝度などをグレードアップした製品のフィルムが多い。

市場に目を向けると、車載業界では世界的な自動車の安全性基準を強化する流れと安全運転ニーズの拡大を背景に、将来的に車載カメラの搭載数が1台当たり10個以上に達するとの予測もある。そのため、カメラレンズの需要が大幅に増加する可能性がある。また、カメラレンズユニットはレンズとフィルムの積層体となっており、1個に対して複数のフィルムが使用されているため、カメラレンズ用フィルムの需要は今後増えると考えられる。実際に、本案件は増えている。

また、有機EL関連および液晶関連に共通して製品の軽量化が進んでいる。フィルム・シートの厚みは今後さらに薄くなると推測する。サイズは各種製品により大小さまざまだが、最近では拡大傾向にある。1シートに面付けを増やし加工するケースも多くなっている。したがって、今後、加工時のフィルム・シートの取扱いは今まで以上に気を配る必要がある。それ以外にもハンドリング時の折れやめくれなどの不具合が発生する可能性があり、慎重に取り扱う必要がある。

顧客ニーズの変化

近年、当社には開発段階のフィルム・シート材などの加工に関する問合せが多い。背景として3つが挙げられる。1つ目は、顧客が社内リソースを材料開発・試作などのコア技術に集中させるため、フィルム・シート加工などの工程は外部に委託する傾向にあること、2つ目は、顧客が必要な設備を保有していないこと、

*Kenya Endo：デザイン&EMS カンパニー 東日本事業部 課長

〒995-0005 山形県村山市大字櫛山字金谷原 1224-36
TEL (0237) 55-4541